

目的 近年、高齢者の全人口に占める割合は増加の傾向にあり、社会的活動範囲も広がられようとしている。衣服業界にあっては関心が高まりつつある状況にあり高齢者衣服として要求される条件を明らかにすることが必要であると考え。そこで、まず高齢者の衣生活における実態と衣服に関する意識を把握するとともに、利用度の高い既製服の適合性について検討した。

方法 一般家庭の60～80才の健康な女子573名を対象とし、夏服について質問紙法によるアンケート調査を1980年6～9月に実施した。一方、名古屋市内4デパートにおける高齢者向け既製服の現状を把握し、アンケート調査結果との関連性を追求した。さらに、既製服業界で高齢者用として体型的配慮がなされていると言われる既製ワンピースを取りあげ、高齢者体型の特徴を示す任意の被検者7名に着用させ、不適合箇所のチェックを行った。

結果 1) アンケート調査では、既製服の利用者は56.2%であるが、高齢者向きのもものが少なく体型に合わないという回答が多い。着用状況は圧倒的にワンピース型で、普段着は袴無、外出着は袴有と着分けをしているのが特徴的である。総じて模様は細かく、色の地味なものを好む傾向がみられ、これらは市場出現状況と一致する。2) 既製服の体型への適合性は背面の円背、平背いずれの傾向を示すかによって、前後のパターン形状に大きな相違がみられた。今回の既製服の体型的配慮はまわり寸法的に処理していることが明らかとなった。このことから体型を形態的に把握し、パターン設計への導入が望ましいと考える。